

第 48 回電子情報化委員会 議事録

日時：2011 年 9 月 20 日（火）13:00～15:00

場所：JCI 会議室 11F

出席者：中村委員長、三木幹事、浅本、甲斐、田所、八十島、吉岡の各委員
（事務局）五十嵐専務理事、戸口

資料

48-0：電子情報化委員会（第 48 回）議事次第

48-1：第 47 回電子情報化委員会議事録（案）

48-2：第 2 回 J-Stage との打合せ報告

48-3：ジャーナルアーカイブの今後の作業スケジュールについて

48-4：会員専用ページ開設についてのお知らせ

48-5：委員会報告書のインターネット電子公開についての検討のお願い

48-6：JCI 専門家 HP コンテンツについての生コン技術者ヒヤリング

48-7：一般向けコンテンツ改善案

48-8：出版物告知メールニュースについて

議事

0. 浅本委員帰国挨拶

1. 前回委員会議事録（案）の確認（三木幹事、資料 48-1）

- ・ 第 47 回議事録（案）の内容を確認し、原案を承認した。

2. メールニュース登録者について（事務局）

- ・ 10 月から技士研修、技術講習会が始まる。その際に生コン技術者へのアンケートを同時に配布できればよい。アンケート文章案を吉岡委員が作成し、中村委員長、三木幹事、事務局戸口氏が確認した上で配付することとなった。

3. 第 2 回 J-Stage 打合せ報告（事務局戸口氏、資料 48-2）

戸口氏から J-Stage との打合せ内容について報告された。主な報告事項は以下の通り。

- ・ J-Stage では、掲載するページに通しページ番号を用いる必要がある。他学会では、冊子に J-stage 用ページ数と冊子版ページ数を併記しているものもある。なお、J-stage 用通し番号を用いて冊子を作成しているものが、J-stage 掲載雑誌のうち約 7 割程度ある。
- ・ 刊行済みの冊子について、当面は「p.号_ページ数」で対応することを検討している。
- ・ 今後発行される学会誌、論文集について、本委員会としては、いずれも通し番号にすることを原案とすることを確認した。
- ・ 学会誌では、位置の一部は掲載しないことが事務局から報告された。文献調査については写真、図の著作権取得に費用がかかり、事務局としては掲載しない方針である。
- ・ 学会誌、論文集いずれも今後は電子公開を前提とした内容にする必要がある。その対応を各編集委員会に検討してもらおう。

4. ジャーナルアーカイブの今後の作業スケジュールについて（事務局戸口氏、資料 48-3）

戸口氏から今後の予定について報告された。主な報告事項は以下の通り。

- ・ 作業スケジュールについて、9月中に冊子確保等、10月に冊子納入、3月末に覚書きの締結の予定である。
- ・ ジャーナルアーカイブは、J-stage と異なり報告的な内容のものは掲載できない。また、2008年12月分までしか掲載できない。それ以降はJ-stageに掲載する。なお、掲載記事は参考文献になることが条件の一つと考えられる。
- ・ 冊子は全文スキャンされ、掲載の可否によらず電子データはJCIに納品される。データはJCIが所有するため、掲載できない資料については、今後の活用方法を検討する。
- ・ 学会誌の不足している冊子は10月14日までに集めることが確認された。この件、理事の方々に協力依頼する。また、寄贈された冊子は、スキャンした後は年単位で合本されて返却される。裁断されてしまうものの、返却を希望される場合は返却することも可能。

5. 会員専用ページ開設についてのお知らせ（三木幹事、資料48-4）

三木幹事よりホームページ記載用、学会誌会告用の文章案が示された。若干の修正の後、それぞれに掲載することが承認された。

6. 委員会報告書電子公開のお願い（三木幹事、資料48-5）

三木幹事より、委員会報告書の会員専用ページにおける公開に関する研究委員会向けの検討依頼案が示された。原案を承認し、中村委員長が研究会に出席し、資料説明することとなった。

7. アクションプラン2011について

7.1 日本語HP専門家向け（吉岡委員、資料48-6）

吉岡委員が実施した生コン技術者（関東地区の生コン工場長、生産部長など）へのヒヤリングの結果が報告された。①インターネットを利用したキーワード検索により、様々な情報を収集している、②学会誌などの記事のレベルは満足している、③技士、主任技士などの資格試験に関する情報を収集したい、などの意見があった。また、学会誌の記事、例えば解説、講座、特集号が注目されていることもわかった。以上の実態を踏まえ、以下のような議論があった。

- ・ 注文意見が少ないのはなぜか？
新たな方法でHP活用することを希望するには至っていないのでは。
- ・ 地方と都市部の違いが見られるのでは？
先のアンケートにおける地方の方の意見のうち、学会誌などを簡潔にまとめたものの必要であるとの意見は今回のヒヤリングでは見られない。東京にて講習会などが多数開催されているため、情報の格差があるのでは。
- ・ 変状事例、失敗例に関する情報が必要との意見があった。ただし、単に写真だけでは誤解を招く必要があるものもあり、十分に説明を加えた資料が必要であると考えられる。診断士研修の特集記事などが参考になるのでは。これらをまとめたページがあればよい。
- ・ 生コンセミナーの情報をどのように出すのかについても考える必要がある。
- ・ 以上を踏まえ、吉岡委員により具体的な作業を示すアクションプランを再度作成することとなった。

7.2 日本語 HP 一般向け（舌間委員、資料 48-7）

- ・ 舌間委員よりトップページ、ならびにコンクリート Q&A のページの改善案が示された。レイアウトを工夫して操作性を向上させるとともに、コンテンツが一覧できるようにする。
- ・ 今後はコンテンツを拡充する必要があり、HPWG にて議論するよう中村委員長より指示があった。その際に、どのように運用するのかについても考える必要がある。

7.3 出版物告知メール（高橋委員、資料 48-8）

高橋委員より、各出版物の公開告知メールについて、原案が示された。

- ・ 宛先の会員、非会員の区別は不要。
- ・ 論文集、ACT では、題目、著者のリストとウェブリンク URL をメール配信する。
- ・ 学会誌、年次論文集は、発行 1 年後に会員限定公開であるため、メールニュースにおいて電子公開されたことを告知する。
- ・ それぞれのメールの頭書きには、簡単な説明が必要。例えば、ACT は「JCI が発行する国際的な学術論文集 Journal of Advanced Concrete Technology (ACT) が電子公開されました。」など。
- ・ 案内文において、「ダウンロードできます」は「閲覧できます」に修正。
- ・ 以上を踏まえ、高橋委員が再度原案を作成することとなった。

配信方法、配信時期など

発行物 公開時期(会員限定・一般)	メールニュース (内容:公開の案内、 ウェブリンク)	告知メール(日本語) (内容:題目、著者リ スト、ウェブリンク)	告知メール(英語) (内容:題目、著者リ スト、ウェブリンク)	配信時期
学会誌 (1年後・3年後)	○			発行後1年 (年12回)
論文集 (発行と同時)		○	○	発行時 (年3回※)
ACT (発行と同時)		○	○	発行時 (年3回)
年次論文集 (1年後・3年後)	○			発行後1年 (年1回)

※論文集の発行について、本年度は年3回である。ただし来年以降は毎月などになる可能性あり。

7.4 その他

- ・ 会員専用ページの登録の際に入力するメールアドレスを、メールニュース配信に用いることができればよい。技術面について、八十島委員が検討することとなった。
- ・ 学会誌において案内されるものの、論文集は冊子廃止であり、告知メールにおける案内は有用と思われる。会費納入の依頼時にメール登録の案内を同封することを事務局で検討することとなった。

8. 次回日程

- ・ 次回は 2011 年 12 月 12 日（月）14：00 から、JCI 会議室にて実施する。

以上